



平成31年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

平成30年8月10日

上場取引所 東

上場会社名 マルコ株式会社

コード番号 9980 URL <http://www.maruko.com>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 岩本 眞二

問合せ先責任者 (役職名) 取締役執行役員経営企画部長 (氏名) 中 研悟 TEL 06-6455-1205

四半期報告書提出予定日 平成30年8月13日

配当支払開始予定日 ー

四半期決算補足説明資料作成の有無：有

四半期決算説明会開催の有無：有

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年3月期第1四半期の連結業績（平成30年4月1日～平成30年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年3月期第1四半期	4,059	19.4	△425	ー	△370	ー	△407	ー
30年3月期第1四半期	3,398	27.0	42	ー	68	ー	345	ー

(注) 包括利益 31年3月期第1四半期 △397百万円 (ー%) 30年3月期第1四半期 411百万円 (ー%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年3月期第1四半期	△4.02	ー
30年3月期第1四半期	4.05	ー

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年3月期第1四半期	19,941	15,314	76.8
30年3月期	20,601	15,812	76.8

(参考) 自己資本 31年3月期第1四半期 15,314百万円 30年3月期 15,812百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年3月期	ー	0.00	ー	1.00	1.00
31年3月期	ー				
31年3月期(予想)		0.00	ー	1.00	1.00

(注) 1. 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 平成31年3月期の連結業績予想（平成30年4月1日～平成31年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	19,300	29.4	1,400	55.5	1,200	55.6	800	△47.7	7.90

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

当社は年次での業務管理を行っておりますので、第2四半期（累計）の連結業績予想の記載を省略しております。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	31年3月期1Q	101,295,071株	30年3月期	101,295,071株
② 期末自己株式数	31年3月期1Q	71株	30年3月期	69株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	31年3月期1Q	101,295,001株	30年3月期1Q	85,479,337株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P. 3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における当社グループを取り巻く環境は、雇用・所得環境の継続的な改善により、個人消費の持ち直しが続く中で推移いたしました。

このような環境の中、当社グループは、新たに『Maruko Avenir Project 2020』を掲げ、女性の皆様が輝く人生を過ごしていただけるよう“美”に関する多彩なサービスを提供する『美の総合総社』の実現に向けて取り組んでおります。

当第1四半期連結累計期間におきましては、テレビCMなどプロモーション展開をより一層強化したことで集客力が向上するとともに、新規店舗の開発・既存店舗の大規模リニューアル、新規出店及び大型店化に対応したボディスタイリスト採用の強化など、より多くのお客様に対応できる体制の構築に向けた成長への投資を先行的に実施いたしました。また、平成30年3月に当社グループ入りした株式会社エンジェリーベによるマタニティ及びベビー向けのアパレルや雑貨の提供など、お客様のライフステージに寄り添ったサービスを提供できる体制の構築や平成30年10月1日を予定とする持株会社体制への移行など、『美の総合総社』に向けた取り組みを推進いたしました。

これらの結果、当第1四半期連結累計期間の売上高40億59百万円（前年同期比19.4%増）、営業損失4億25百万円（前年同期は営業利益42百万円）、経常損失3億70百万円（前年同期は経常利益68百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失4億7百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益3億45百万円）となりました。

前年同期に比べ減益となりました主な要因は、以下のとおりです。

- ① 体型補整下着販売における主力製品『Curvaceous（カーヴィシャス）』が好調に予約を伸ばしているものの、生産遅延によりお客様へのお届けが第2四半期以降となった結果、売上、利益ともに第2四半期以降にずれ込んだこと。
- ② 中長期的な成長を見据えたプロモーションの強化、店舗網の拡充、ボディスタイリストを中心とする採用の促進など成長投資を先行的に実施していることから、前年同期に比べて経費が増加していること。
- ③ 前年同期においては、退職給付制度改定益など特別利益3億47百万円を計上したものの、当第1四半期連結累計期間においては特別利益の計上がなかったこと。

当社グループにおけるセグメントごとの経営成績は次のとおりです。

[婦人下着及びその関連事業]

婦人下着及びその関連事業においては、補整下着の販売及びコスメや健康食品などの美に関連する製商品の販売が主要事業であります。

当第1四半期連結累計期間におきましては、体型補整下着の主力製品『Curvaceous（カーヴィシャス）』が好調な予約に対して生産ラインの拡充が間に合わず、多くのお客様へのお届けが第2四半期以降となりました結果、売上が伸び悩みましたが、以下のとおり、中長期的な成長への投資、取り組みが着実に実を結んできております。

新規顧客の獲得では、東京を中心とした首都圏でのテレビCMを放映するなどメディアプロモーションを強化したことにより、メディアを通じてご来店いただけるお客様が増加するとともに、お客様からのご紹介によるご来店も増加した結果、新規ご来店客数が前年同期に比べ5,000名を超える大幅増加となりました。

店舗展開では、当社初のご新規様専門店『Avenir MARUKO 新宿センタービル店』（東京都新宿区）を開設した他、『大宮店』（埼玉県さいたま市）、『広小路伏見店』（愛知県名古屋市）を新設するとともに、『上野店』（東京都台東区）など4店舗を大規模リニューアル（移転含む）するなど、お客様が気軽に安心して、快適にボディメイクを楽しんでいただける店舗環境の整備を推進いたしました。

また、商品展開では、平成30年6月に『Hip Up Pants（ヒップアップパンツ）』を一部店舗（29店舗）、2,000本限定でのテスト販売を実施したところ、即日完売となるご好評をいただき、本年秋からの定番製品として販売することを決定した他、コスメやサプリメントなどにおいても定番商品化が決定するなど、商品ラインナップの拡充が着実に進みました。

以上の結果、婦人下着及びその関連事業の売上高は33億89百万円となりました。

[マタニティ及びベビー関連事業]

マタニティ及びベビー関連事業においては、平成30年3月に当社グループ入りした株式会社エンジェリーベにおいて、マタニティ及びベビー向けのアパレルや雑貨、出産の内祝いギフトの販売が主要事業であります。

当第1四半期連結累計期間においては、自社ECサイト及び大手ショッピングモールでの販売が堅調に推移しており、特にベビー向けの商品販売では、アパレルからチャイルドシートなど幅広い商品の拡充により、前年同期比132%と好調に推移いたしました。

以上の結果、売上高6億72百万円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(流動資産)

当第1四半期連結会計期間末における流動資産は139億56百万円となり、前連結会計年度末に比べ8億21百万円減少いたしました。これは主に、売掛金の増加、たな卸資産の増加及び現金及び預金の減少の結果によるものであります。

(固定資産)

当第1四半期連結会計期間末における固定資産は59億84百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億61百万円増加いたしました。これは主に、建物及び構築物の増加及びのれんの減少の結果によるものであります。

(流動負債)

当第1四半期連結会計期間末における流動負債は41億21百万円となり、前連結会計年度末に比べ1億47百万円減少いたしました。これは主に、ポイント引当金の増加、未払法人税等の減少及び支払手形及び買掛金の減少の結果によるものであります。

(固定負債)

当第1四半期連結会計期間末における固定負債は5億5百万円となり、連結会計年度末に比べ14百万円減少いたしました。これは主に、資産除去債務の増加及び長期借入金の減少の結果によるものであります。

(純資産)

当第1四半期連結会計期間末における純資産は153億14百万円となり、連結会計年度末に比べ4億98百万円減少いたしました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上及び剰余金の配当による利益剰余金の減少の結果によるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年3月期連結業績予想につきましては、平成30年5月14日の「平成30年3月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	9,291,037	7,644,799
売掛金	3,462,711	4,077,762
商品及び製品	1,384,911	1,491,242
原材料及び貯蔵品	258,272	291,647
その他	422,697	495,431
貸倒引当金	△41,961	△44,224
流動資産合計	14,777,669	13,956,659
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	785,286	872,835
土地	830,724	830,724
その他(純額)	297,615	294,069
有形固定資産合計	1,913,625	1,997,628
無形固定資産		
のれん	273,691	266,792
その他	93,559	109,683
無形固定資産合計	367,251	376,475
投資その他の資産		
投資有価証券	1,790,000	1,800,000
繰延税金資産	686,313	687,793
その他	1,066,165	1,122,696
投資その他の資産合計	3,542,478	3,610,490
固定資産合計	5,823,355	5,984,594
資産合計	20,601,025	19,941,253

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成30年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成30年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,575,691	1,360,113
短期借入金	395,500	395,500
未払法人税等	382,625	66,000
賞与引当金	107,378	55,000
返品調整引当金	13,000	12,000
ポイント引当金	460,000	603,000
株主優待引当金	77,177	77,177
資産除去債務	7,090	16,337
その他	1,250,029	1,536,262
流動負債合計	4,268,492	4,121,390
固定負債		
長期借入金	16,005	13,518
退職給付に係る負債	8,340	8,719
資産除去債務	308,421	313,720
その他	186,848	169,321
固定負債合計	519,615	505,279
負債合計	4,788,107	4,626,669
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,491,360	6,491,360
資本剰余金	6,473,978	6,473,978
利益剰余金	2,856,442	2,347,464
自己株式	△22	△22
株主資本合計	15,821,759	15,312,781
その他の包括利益累計額		
為替換算調整勘定	6,448	6,231
退職給付に係る調整累計額	△15,289	△4,428
その他の包括利益累計額合計	△8,841	1,802
純資産合計	15,812,918	15,314,584
負債純資産合計	20,601,025	19,941,253

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
売上高	3,398,725	4,059,398
売上原価	1,739,272	2,256,186
売上総利益	1,659,452	1,803,212
返品調整引当金戻入額	14,000	13,000
返品調整引当金繰入額	13,000	12,000
差引売上総利益	1,660,452	1,804,212
販売費及び一般管理費	1,617,880	2,229,677
営業利益又は営業損失(△)	42,571	△425,464
営業外収益		
受取利息	2	539
受取配当金	9,819	16,012
受取手数料	8,246	19,039
業務受託料	6,000	6,000
債務勘定整理益	75	19,465
その他	3,793	3,271
営業外収益合計	27,937	64,328
営業外費用		
支払利息	—	2,047
株主優待費用	—	5,702
その他	1,828	2,094
営業外費用合計	1,828	9,844
経常利益又は経常損失(△)	68,680	△370,979
特別利益		
退職給付制度改定益	341,077	—
その他	6,183	—
特別利益合計	347,260	—
特別損失		
減損損失	—	1,318
賃貸借契約解約損	476	1,475
その他	1,695	388
特別損失合計	2,171	3,182
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期 純損失(△)	413,769	△374,162
法人税、住民税及び事業税	27,474	40,636
法人税等調整額	40,438	△7,116
法人税等合計	67,913	33,520
四半期純利益又は四半期純損失(△)	345,856	△407,682
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主 に帰属する四半期純損失(△)	345,856	△407,682

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成29年4月1日 至平成29年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成30年4月1日 至平成30年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	345,856	△407,682
その他の包括利益		
為替換算調整勘定	△238	△216
退職給付に係る調整額	66,042	10,861
その他の包括利益合計	65,804	10,644
四半期包括利益	411,661	△397,038
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	411,661	△397,038
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成29年4月1日至平成29年6月30日)

当社グループは、取締役会における経営資源の配分の意思決定及び業績を評価するための定期的な検討の対象を体型補整を目的とした婦人下着及びその関連事業とし、これらを単一のセグメントとしております。

これは、当社グループの主要製品である体型補整を目的とした婦人下着とその関連商品の市場及び販売方法は同一若しくは密接に関連しているためであります。

従って、報告セグメントについても単一のセグメントとしており、記載を省略しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成30年4月1日至平成30年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			調整額	四半期連結損益 計算書計上額 (注)
	婦人下着及び その関連事業	マタニティ及び ベビー関連事業	計		
売上高					
外部顧客への売上高	3,389,609	669,789	4,059,398	-	4,059,398
セグメント間の内部売上高又は振替高	-	2,859	2,859	△2,859	-
計	3,389,609	672,648	4,062,258	△2,859	4,059,398
セグメント損失(△)	△420,144	△5,320	△425,464	-	△425,464

(注) セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と一致しております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

当社グループの報告セグメントは、従来より婦人下着及びその関連事業の単一セグメントでしたが、前第4四半期連結会計期間より、株式会社エンジェリーベが連結子会社になったことに伴い、報告セグメントに「その他事業」を追加しております。なお、当第1四半期連結会計期間より、重要性が増加したことに伴い、「その他事業」から「マタニティ及びベビー関連事業」に変更しておりますが、含まれる事業内容に変更はありません。